

デザイン。インサイト。リサーチ。
2023年 秋

Work Better

WB



より良い未来 をデザイン

変化をもたらす人々と場所

Steelcase



デザイン。インサイト。リサーチ。
2023年 秋

Steelcase ブランドコミュニティ

Steelcase と私たちのブランドコミュニティは、よりよいワークプレイスを創造するために、さまざまな家具やソリューションを提供しています。

エグゼクティブエディター
Gale Moutrey

編集長
Chris Congdon

シニアエディター
Rebecca Charbauski

フィーチャーエディター
Stav Kontis

クリエイティブディレクター
Erin Ellison

シニアアートディレクター
Emily Cowdrey

アートディレクション & デザイン
Jennifer High, Abigail Downey, Kat Magee

表紙イラスト
Marie Blampain, Mauricio Cuéllar, Jorge Freyre, Gabriel Méndez, Beatriz Montaña, Xóchitl Ortiz, Karla Puente

シニアプロダクションスペシャリスト
Jacob Van Singel

グローバル記者
Meg Bennett, Rocío Díez, Laura Feinauer, Samantha Giam, Ruth Howard, Will Linnell, Carey Potter, Frederique Rey, Deena Sami, Lindsey VanDenBoom

寄稿ライター
Carson Brown, Keith Bujak, Jill DeVries-Dryer, Angela Eick, Jeremy Frechette, Sarah Johnson, Patricia Kammer, Brandon Lacic, Chiara Licari, Sara Liggoria Tramp, Abbey Lossing, Brian Miller, Katie Pace, Dean VanDis, Amy Willard, Jody Williams

デジタルメディア
Areli Arellano, Jordan Marks



coalesse



viccarbe

Smith System

DESIGNTEX

H A L C O N

orangebox



Steelcase

FLOS

Bolia.com



west elm

m o o o i



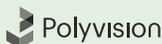
extremis

Kartell

zoom



nanimarquina



KWICKSCREEN

logitech

GOODEE

skram



MODUFORM



目次

今、リーダーたちが考える重要なものとは	2
心地よい空間：クィア・アイのデザイナーがウェルビーイングに注目	4
良心のあるデザイン	7
デザインを再考サステナビリティ	10
より良い地球のための15の選択	15
ニーマン・マーカスで帰属意識を構築	20
より快適な医療空間	22
新たな法律事務所の姿	26
実践による学習	28
分野	
最新情報	3
インタビュー ブーナム・ビール・カツリ氏の紹介	23
インクルーシブ・デザイン	24
インスピレーション	29

今、その時が来た

ワークプレースのトレンドに驚くことはほとんどありません。変化がないわけではありませんが、注意を払えば、たいいていのことは予見しやすいものです。

パンデミック前の人々のオフィスに対する不満を考えると、現在柔軟性のある働き方が求められているのは自明の理です。この変化に驚いた人はいるでしょうか。

私たちは長年にわたり、従業員やリーダーたちにとってのワークプレースのあり方や、最も重要なことについての意識を調査し、オフィスが必要とする具体的な製品、ソリューション、優先事項について学んできました。

WorkSpace Futures 研究のチームメイトがグローバルリーダーに関する最新の調査結果を発表したとき、私の最初の反応は「これはすごい」でした。

リーダーたちは、今年さらに重要になると思われる課題として、「従業員のウェルビーイング」、「持続可能性」、「多様性、公平性、インクルージョン」を挙げているのです。

これらのトピックは新しいものではありません。しかし、リーダーたちは常に、重要ではあるが緊急性は高くないという選択を迫られていました。それが今、変わったのです。

3年前、私たちの研究者たちは通常の「フォアサイト（予見）」と呼ばれる方法論を用いていましたが、今回は特に人と地球の問題を探求しました。最初は取るに足らないと思われるようなシグナルでも、パターンが浮かび上がってきて、それが「力」として統合され、将来起こりうるシナリオに変換されるのです。それは、変化が私たちに訪れる前に、正しい選択をするための未来に向けた計画方法です。私たちの研究者は、気候変動と従業員のウェルビーイングが、近い将来、組織の戦略的選択に大きな影響を与える問題であることを特定しました。具体的には、異常気象に対する対処計画や、短期的な組織の利益よりも長期的な従業員のウェルビーイングを優先することなどです。

私たちは、この優先順位の変化が起こることを、変化を最前線で提唱してきた人々とともに予見していました。そしてその未来が今ここにあります。



リーダーたちの新たな優先課題について話し合う WorkSpace Futures のマネージャーのエミー・ウィラード氏（右）とクリス氏（左）

私たちのリーダー研究（ページ2参照）で浮かび上がった感情は、希望をもたらし、それが勢いを増していることを示すものです。「Work Better」本号では、その勢いをさらに加速させることに焦点を当てています。私たちは製品や空間デザインについて、また人々が中心となるヘルスケアや学習スペースについて新しい考え方を発信し、皆さまにインスピレーションを与えたいと願っています。私たちはインクルーシブな空間をデザインするためのアイディアを共有し、人々と地球のためにより良い未来をデザインする人々を称えます。集団で行動を起こすことで、組織はより大きなインパクトを与えることができると信じています。

2023年の年次インパクト・レポート「より良い未来に向けた私たちの取り組み」を掲載することを決定しました。このレポートでは、私たちが設定した目標と、人と地球のウェルビーイングのために進んでいる進捗状況について詳述しています。私たちは、業界で誰よりも野心的な温室効果ガス削減目標の達成に向け、世界規模で取り組んでいます。私たちの選択と直面する課題についてオープンで正直な対話を促進するため、その詳細を共有し、皆さまと共に前進していきます。

私たちに、より良いものを生み出す力があるのです。

Chris Condon

クリス・コンドン
Work Better Magazine 編集長

今、リーダーたちが考える重要なものとは

世界中のビジネスリーダーたちの間で、「人と地球」という新たな優先事項が注目を集めています。

優先事項：人 + 地球

来年はどのようなワークスペース問題がより重要になるとお考えですか、と私たちはリーダーたちに尋ねました。新しい視点が勢いを増しています。

従業員のウェルビーイングは、長年重要視され首位に立っています。現在では、持続可能性、次いで多様性、公平性、インクルージョンが最重要課題として浮上しており、これはリーダーの視点が変化していることを示しています。2020年には、感染症対策がプライバシーの保護とともに話題の中心を占めました。これらは依然として重要ではあるものの、新たな優先事項が明らかに浮上しつつあります。



リサーチについて

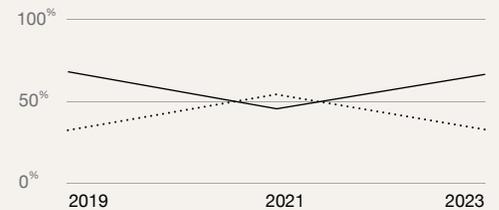
Steelcase WorkSpace Futures は定期的にグローバルリーダーを対象としたプライマリーリサーチを実施し、彼らがどのような問題に直面し、どのような方向に向かっているのかを調査しています。研究者のサラ・ジョンソン氏とエイミー・ウィラード氏は2023年春に11カ国でこの調査を実施しました。この調査には多様な業界、都市、組織規模のリーダーが参加し、ワークスペースの方向性についての彼らの総合的な見解を得ることができました。



リーダーたちは、オフィス勤務の多くがパンデミック前の状態に戻ると予想しています。

パンデミックの最中にはリモート勤務が増えましたが、現在は最適なワークスペースについての考え方が変化し、ほとんどのリーダーは従業員が週に3日以上オフィスにいることを期待しています。

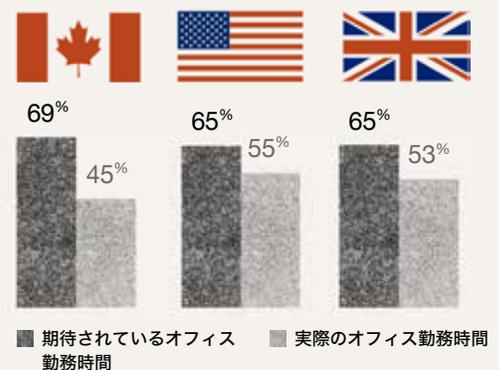
主にオフィス勤務または主にリモート勤務を示した割合



□ 主にオフィス勤務 (週3日以上)
▨ 主にリモート勤務 (週3日以上)

カナダ、米国、英国では、従業員がオフィスで働く頻度はリーダーたちの期待よりも低い。

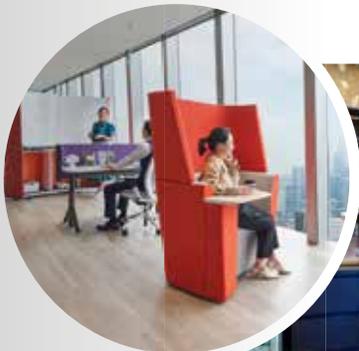
このような不安が、リーダーたちをワークスペース環境の改善を行う動機づけとなっています。他の国では、リーダーたちと従業員の意識がより一致しており、多くの従業員がリーダーたちの期待を上回っています。





ミュンヘン

ミュンヘン、シドニー、深センの新たに造られた Steelcase のスペースはハイブリッドワークの斬新なスタイルが特徴です。新しくデザインされたネイバーフッドチームは文化やコミュニティを構築し、プライバシーと協働のスペースをバランスよく配置しています。また、最新のデザインとテクノロジーで遠隔地にいるチームメートをより公平につなげることができます。



深セン



シドニー

CECP: インクルージョンが進歩をもたらす

Steelcase はこの度 Chief Executives for Corporate Purpose® (CECP) のワークプレイスにおける障害者インクルージョンに関する調査を支援しました。この調査によると、大手企業は、障害者インクルージョンとワークプレイスデザインに関する方針、実践、文化を戦略的に統合し、リソースを割いています。参加者の 67% が、障害者インクルージョンの成熟度は中級または上級であると回答しています。Steelcase の社長兼 CEO であるサラ・アームブラスター氏はこの活動をさらに支援するために CEO 主導の連盟の理事会に加わりました。インクルーシブなワークプレイスを創造するためのアイデアについては 24 ページをご覧ください。



自然の音で集中力を高める

オフィスでの最大の不満は騒音です。Moodsonic のサウンドスケープは自然の音を使用し、気分をリフレッシュさせ、注意をそらすものを最小限に抑えます。Steelcase は、このサウンドスケープをグランドラピッツで試験的に導入しウェルビーイングをどのように向上させることができるかを確認しました。Moodsonic の調査によると、認知力は 20 ~ 30%、創造性と協調性は 10 ~ 20%、リラクセスする能力は 10% 向上しました。職場環境の認識と気分は改善され、注意をそらすものは 85 ~ 90% 減少しました。

詳細: moodsonic.com



アップサイクルの芸術

毎年開催される IIDA サステナブル・キルト・オークションでは、デザイナーたちがアップサイクルされた商用ファブリックを使用してキルト作品を制作します。Steelcase のメンバーはデザイナーとコラボレートし、フランク・ロイド・ライト氏のステンドグラス窓「ツリー・オブ・ライフ」にインスパイアされたキルトを 1000 枚の布から縫い上げました。ワークライフ・ニューヨークで開催された 2023 オークションでは、500 ポンドのゴミを埋め立て処分から救い、恵まれない地域の若者を支援する Free Arts NYC に 1 万ドルを寄付しました。

フランク・ロイド・ライトにインスパイアされたキルトは Steelcase が購入し、ミシガン州グランドラピッツの Steelcase キャンパスに展示されました。

キルト作成者: Kail Kennedy, Steelcase; Meghan Hennigan, Signify; Grazyna Pilatowicz, Fashion Institute of Technology; Caitlin Hucks, Maharam Textiles; Corinna D'Ambrosio, Ware Malcomb; Lisa Blesser, Momentum Textiles



心地よい 空間

クィア・アイのデザイナー
がウェルビーイングに注目

Netflixのリアリティ番組「クィア・アイ」では、デザイナーのボビー・バーク氏が、どんな人であってもくつろげるような、あっと驚く（しばしば涙を誘うような）特注の空間を作り出しています。バーク氏は番組の中でも番組外でも、人々が過ごすスペースに明晰さと精神的なウェルビーイングを求めています。彼はその使命を最新のデザインチャレンジに託しました。Steelcaseと連携して、L.A.の家全体を彼の総合インテリアデザイン会社の新しい本社に変身させたのです。



+ Trestle Table
and Bench
Vicarbe



+ Grab Pouf
Bolia

パーク氏は、多目的に利用でき、快適で多機能なオフィスを望んでいました。より多くのビデオミーティングができる場所が必要だったため、大胆な背景を持つプライベート・コールドームが作られました。4人でゆったりと座ることができ、Moooiのコンテナテーブルを囲みながらWest Elm Work Belle モジュラーソファでくつろぎ雑談を楽しめます。

「インテリアデザインとは、ただきれいなものを購入することではありません。安らぎと喜びをもたらすものを空間に取り入れることです」

ボビー・パーク

デザイン専門家、作家、エミー賞ノミネート TV 司会者

オールインワンの会議スペース(写真左)は、パーク氏のチームが集い、食事をし、創造する場所です。

ここはパーク氏のチームが仕事に取り組む場所です(写真右)。誰もがSteelcaseのKarman®チェアに座ることができます。彼のチームは、ここは「オフィスっぽくない」洗練されたシンプルなデザインだと評しています。



心地よい空間のためのアイデア



+ Zoco
Vicarbe



+ New! Cugino Soft
Mattiazzi



+ New! Fuste
Vicarbe



+ New! Designtex Coveted Collection
Vicarbe



+ New! Trivio
Vicarbe



+ New! West Elm Work Sutton
高さ調節可能デスク
West Elm



洗練されていながらもリラックスできる空間：Steelcase はボビー氏のチームにスペースのレンダリングを提供し、彼らのアイデアがどのように具現化されるかを見てもらいました。これには、スペースにシームレスに統合され、うまく機能する製品や仕上げの選択をサポートすることが含まれ、収納や作業スペース、デザイン資料の展示スペースも確保しました。その結果、自宅のようにくつろげ、長期間使えるオフィスが完成しました。



+ Steelcase Karman
Steelcase

「私たちの使命は、良いデザインは心にも良いということ、すべての人に気づいてもらうことです。そこにいるだけで気分が良くなるような空間をデザインしたいのです」

ボビー・パーク

写真提供：サラ・リゴリア・トランプ

良心のある デザイン

デザイナーや建築家は、自分たちが建てる場所が、そこで暮らし働く人々や地域社会に影響を与えることを知っています。

これがいかに大きな責任であるかを認識し、デザイン・コミュニティはリーダーシップの役割を担い、人と地球に良い影響を与える場所を創造するために集団的な行動を起こしています。より良い未来を創るために、デザインの力をどのように活用しているのか、6つの企業をご紹介します。

ARP Astrance

フランスの設計事務所 ARP Astrance の存在意義は大胆です：それは、「ポジティブな影響を与える不動産と都市を創造すること」です。フランスで初めて B-Corp 認証を取得した設計・建築事務所として、ARP Astrance は 30 年以上にわたってクライアントと協力し、バイオフィリックデザインと循環経済の原則を通じて、持続可能で健康的な職場づくりを支援するとともに、二酸化炭素の削減と人々の総合的なウェルビーイングに配慮した設計を行っています。

「社会的責任と環境保護は、私たちの DNA の中核をなすものです」「私たちは、社会的・環境的配慮をすべての活動、そしてお客様、従業員、パートナーとの関係に組み込んでいます」とサステナブル戦略・環境移行部門デューティ・マネージング・ディレクターのグウェンネール・シャプルーレ氏は語ります。

ARP Astrance は最近、パリにある自社の職場を改革し、CERTIVEA（持続可能な生活環境に関するフランスの主要認証機関）の認証を受け、OsmoZ ラベル

を授与されました。新しいスペースは、柔軟性を最大限に生かし、既存の家具やカーペットを再利用し、バイオフィリックな要素を随所に取り入れることで、人々のウェルビーイングを高め、二酸化炭素を 75% 以上削減するよう設計されました。また、このスペースは、フランスで初めて循環型経済不動産プロジェクトを推進する Circolab® ラベルを取得中です。「このプロジェクトは、現実的な予算と時期の範囲内で実現可能であることを証明しています」とシャプルーレ氏は語ります。

「私たちのビジョンは、リスク軽減という単純な考えを超えて、私たちにとって有益な場所、つまり再生可能な場所を創造することです」

グウェンネール・シャプルーレ
デューティ・マネージング・ディレクター
サステナブル戦略 + 環境移行部門

ARP Astrance オフィス、フランス、パリ



Lemay

カナダの建築事務所 Lemay は、考え抜かれたデザインが世界を変え、人々やコミュニティにとって有意義な空間を創造できると信じており、厳格な Net Positive™ フレームワークを通じて実現しています。

「Net Positive™ は、持続可能な建築環境のスケラブルな開発と、利用者の現在の総合的な行動変化、そしてこれからの回復力ある未来に焦点を当てた、当社の中核的な ESG イニシアチブです」と Lemay のサステナビリティ担当ディレクター、ヒューゴ・ラフランス氏は説明します。



Lemay のクライアント、Nortera 本社、ケベック州モントリオール

同社は、自社オフィス「フェニックス」を、健康とウェルビーイング、環境、二酸化炭素排出量削減に焦点を当てた Net Positive 戦略の実験場として活用しています。モントリオール南西地区にある放置された 1950 年代の倉庫をユニークな職場環境に変えたフェニックスは、地域活性化の一翼を担い、新しいビル建設で発生するはずだった 12,000 トンの温室効果ガスの排出を防止しました。リビング・グリーン・ウォールやクライミング・プラント・モジュールといったバイオフィリックな要素を取り入れ、室内の空気環境を改善し、湿度バランスを整え、自然とのつながりを維持します。すべてのオフィスエリアは日当たりと眺望を確保しており、人工照明の必要性を減らし、これらを理由に、フェニックスは Fitwel の 3 つ星評価、ゼロ・カーボン・ビルディング・スタンダード、LEED プラチナ認証を獲得しています。

「Net Positive™ は、建物や近隣のマスタープランのマクロレベルだけでなく、インテリアにも再び焦点を当て、アップサイクルします」「その結果、社会的認知の向上、従業員の誘致と定着、運営コストの削減や利益率の向上、そして利用者の満足度を定量化することまで、さまざまな利点が連鎖的にもたらされます」とラフランス氏は語ります。

Woods Bagot

オーストラリアを拠点とする世界的な設計事務所 Woods Bagot は、デザイナーは「多様な思考と包括的な視点をもって、変化し続ける世界の複雑さとともに成長しなければならない」と考えています。「人々にデザイン以上のインパクトを与えるには、建築がそのスタイルを超えるものを提供し、尊敬されるような世界を作る必要があります」「人間の本能、人間の状態、人間の感性にさらに寄り添うために、業界全体の方向性を転換させることができるという考えに、私たちの組織の一人ひとりが貢献しなければなりません」と語るのは、Woods Bagot のプリンシパル、レイ・ユエン氏です。

さまざまなイニシアチブの中で、Woods Bagot は、この目標を達成するために、植民地化とそれが先住民に現在も及ぼしている影響についての認識を高め和解を促進することに取り組んでいます。Woods Bagot の和解行動計画 (RAP) は、有意義なパートナーシップを通じて先住民コミュニティとのより強い関係を構築し、地元の先住民リーダー、長老、組織と協力し、彼らの声が計画や設計のプロセスで尊重されるようにするための同社の献身を示しています。

現在、Woods Bagot は Diller Scofidio + Renfro とともに、オーストラリアのアデレードにあるアボリジナル・アート&カルチャー・センター (AACC) の設計に携わっています。AACC は Kaurna 族の土地に建設され、アボリジニ文化の過去、現在、未来を紹介すると同時に、現代アートの実践やイベントをサポートします。デザインチームは、AACC アボリジニ・リファレンス・グループ (ARG) のメンバーと深く話し合い、デザイン・ビジョンを見出してきました。Woods Bagot のプリンシパル、ロジーナ・ディ・マリア氏は、この協議プロセスを謙虚で感動的な経験だったと語っています。

「私たちの役割は、耳を傾け、ARG の願望と野心をデザインに反映させることです。アボリジナル・アート&カルチャー・センターは、オーストラリア人全員が自分たちのことを再認識し、過去の真実を語り継ぐことを学び、つながりのあるコミュニティとして新たな記憶を創造するために、考え直す場所となるでしょう」

ロジーナ・ディ・マリア
プリンシパル



アボリジナル・アート&カルチャー・センター、オーストラリア、アデレード

Gensler 技能実習プログラム



Gensler

2020 年にジョージ・フロイド氏が殺害された事件を受けて、世界的な設計事務所である Gensler は、自社、A+D 業界、そして次世代の人材における人種や民族性に意図性を持たせる責任を感じました。同社の「人種差別と闘うための 5 つの戦略」は、Gensler と世界中のコミュニティにおいて、前向きで持続的な変化をもたらすための重要な戦略を概説しています。

主な取り組みは、Gensler のデザイン教育+雇用プログラム (DEEP) の第 1 号である Gensler 技能実習プログラム (GAP) です。GAP は、学位を必要としないデザイン業界への別の道を提供する 2 年間の有給見習い制度です。Gensler の実習生は、デザインの専門家とともに働き、実践的なアプリケーションを通じて、デザイン、建設、ビジネスの実世界での経験を積みみます。このプログラムは、多様な考え方、経歴、ユニークなスキルを持つ人々を会社に招き入れ、個人の人生や他の人々の人生に変化をもたらす力を与えることを目的としています。

「私たちは、この業界で最も格差の大きい黒人、特に黒人女性に焦点を当てることにしました」「これは、他の不特定多数のグループを排除してしまう可能性があるため、非常に議論的となりましたが、私たちの思考プロセスは、上げ潮はすべての船を持ち上げる、つまり誰もが恩恵を受けるというものでした。黒人女性建築家の採用、維持、昇進を支援し、前進させるために私たちが導入した関係、パートナーシップ、リソース、プログラムは、アジア人、ヒスパニック系ラテンアメリカ人、LGBTQ + コミュニティなど、他の疎外されたグループも支援します。そして 3 年目を迎え、私たちの戦略が功を奏していることがデータに反映され始めています」とのダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン担当グローバル・ディレクター、ジェイソン・ピュー氏は言います。

「黒人女性建築家の採用、維持、昇進を支援し、前進させるための関係、パートナーシップ、リソース、プログラムは、他の疎外されたグループの支援にもつながるのです」

ジェイソン・ピュー
ダイバーシティ、エクイティ+インクルージョン担当グローバル・ディレクター

Corgan

米国を拠点とするグローバル・デザイン・ファーム、Corgan は、サステナビリティはパフォーマンスの反響であると考えています。「サステナビリティは犠牲を意味するのではなく、クライアントのユーザーとその業界にとって、より良いデザインと体験を提供するものです」と Corgan サステナビリティ・ディレクターのヴァルン・コーリー氏は言います。

Corgan は、テキサス州ラスクリナスにあるウェルズ・ファーゴ社に初のネット・ポジティブな新キャンパスを設計し、従業員の経験や環境との良好な関係を促進する施設を提供しました。消費するエネルギーよりも多くの再生可能エネルギーを現地で生み出すことが期待されるこのプロジェクトは、LEED プラチナ認証を取得する予定です。テキサスの気候はエネルギーの需要があり、ここでネット・プラスを達成するには包括的なアプローチが必要になります。それには、敷地計画、建物の質量とファサードのアーティキュレーション、ソーラーパネル、地域から調達した材料、照明介入、間隔的バイオフィリック要素、使用材料（特にコンクリート構造体）の体積炭素を削減するための全ライフサイクル評価（LCA）などが含まれます。

タワーとガレージの上には、光を電気に変換する太陽光発電パネルで覆われた3つの構造物があります。精巧なスチールのキャノピー構造となっており、空中でビルを覆うように、夜は柔らかく照らされ、プロジェクトとそのビジョンのシグネチャーマークとして、繊細に浮遊する飛行機のような幻想を生み出します。

「私は常々、持続可能性、レジリエンス、気候変動への適応戦略は、優れた設計手法に他ならないと考えています。しかし、それは地球環境と微気候の両方の背景を意識して初めて効果を発揮するのです」

ヴァルン・コーリー

サステナビリティ・ディレクター

「その意識によって、私たちは自然環境と調和した建築をデザインすることができます。自然と戦うのではなく、自然とダンスするように、地球の生態系の美しさと響き合うのです」とコーリー氏は言います。



HOK

HOK は使命を担っています。この世界的な設計事務所は、ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン（DEI）について世界を啓蒙し、インクルーシブ・デザインの真髄を示す上で主導的な役割を果たしています。「美しい空間をデザインするだけでは十分ではありません。プロジェクトに関わるすべてのステークホルダーが、私たちが生み出す空間に存在する人々への影響を認識し、十分な情報に基づいた意思決定ができるようにしたいと考えています」と HOK のプリンシパル/リージョナルリーダーであるミッキー・ワシントン氏は述べます。

数年前、HOK は社内で「Designing for Equity（公平性のためのデザイン）」プラットフォームを立ち上げ、設計チームが公平なソリューションを生み出すために必要なフレームワークとリソースを提供しました。「私たちの目標は、設計と建設のプロセスで何を考えるべきか組織を啓発し、それを実践するためのツールを提供することです」「私たちは、クライアントが重要な決断を下す前に、公平性というテーマについて重要な会話を促したいと考えています。人々のニーズを主に考えなければなりません。最終的に、デザインは空間、機会、経験を通じて変化と進化の触媒となることができるのです」とワシントン氏は言います。

「美しい空間をデザインするだけでは十分ではありません。すべてのステークホルダーが、私たちが生み出す空間に存在する人々への影響を認識し、十分な情報に基づいた意思決定ができるようにしたいと考えています」

ミッキー・ワシントン

プリンシパル / Workplace リージョナルリーダー

HOK の社員は、パネルディスカッションへの登壇、業界会議への参加、包括性への情熱を共有する戦略的パートナーとの協力で多大な時間を割いています。「イベントにおいて、私たちは一貫して、この業界と手を組み、共に歩んでいくことに挑戦しています。私たちの願いは、こうした考えが同業者やパートナーに採用されることです。デザイナーが一丸となって適切な質問をすれば、クライアントの建物だけでなく、従業員にとっても最善の決断を下す手助けができるのです」とワシントン氏は伝えます。



ウェルズ・ファーゴ・ネット・ポジティブ・キャンパス、テキサス州ラスクリナス



デザインを再考、 サステイナビリティ

デザイナーは、インパクトを与えることができる選択肢を持っています。彼らは本来、物への見方や前提に挑戦する問題解決者なのです。しかし、より少ない資源で気候変動への影響を抑える解決策をデザインすることは困難なことです。

このような複雑な問題には、さまざまな役割の人々が協力し、互いに挑戦し合うことが必要です。従来のやり方を見直し、プロセスを再検討して、より良く持続可能な未来につながる新しいシステムを構築しなければなりません。

デザインとイノベーションのコンサルタント会社である IDEO は、イノベーションの 3 つのレンズ、望ましさ（欲求や必要性）、実行可能性（収益性）、実現可能性（一定の基準を満たす製品）というフレームワークで、多くのデザイン専門家にインスピレーションを与えました。今日、気候危機はもうひとつのレンズ、すなわち責任を求めています。

「責任とは私たちが創造し、消費し、使用するすべてのものの環境について考えるという、社会に対する道徳的、倫理的義務のことです」「私たちは製品

開発の方法を常に進化させています。その理由は、すべての技術革新の背後には、私たち社会にとっての隠れたコストが存在するからです」と Steelcase のグローバルデザイン部門のバイスプレジデントであるマイケル・ヘルド氏は述べています。

責任というのはデザインにおける新しい検討事項ではありません。しかし、大小を問わず、それぞれの決定が及ぼす影響を継続的に検討する習慣を取り入れることで、新たな発見があります。Steelcase のデザイナー、エンジニア、科学者、オペレーションなどは持続可能なプロダクトデザインプロセスの継続的な改善に取り組んでいます。彼らは学びながら、一丸となって変化をもたらすために役立つ新しいアイデアやアプローチを分かち合うことに深くコミットしています。



新たな優先課題

Steelcase の新たなグローバルリサーチによると、リーダーたちはこれまで以上にワークプレイスにおける意思決定の要因として、従業員のウェルビーイング、サステナビリティ、多様性、公平性、インクルージョンなど、これまでとは異なる考え方に取り組んでいます。これらの問題はすべて相互に関連しており、従業員、投資家、顧客の選択に影響を与えます。意思決定者は、財務的に成功するだけでなく、天然資源を保護し、製品設計を含め、より再生可能なアプローチを目指す戦略や技術に投資する企業と協力したいと考えています。

「サステナビリティ戦略は3つの柱で構成されています」「カーボンフットプリントの削減、循環型デザイン、そして責任ある素材の選択と使用です。私たちの日々の選択はすべて、これらの3つの目標に一貫性を持たせ、それに向かって前進する必要があります」と Steelcase のサステナビリティ担当ディレクターのメアリー・エレン・ミカ氏は言います。

ミカ氏は、サステナビリティ目標の設定、測定、達成を担当するチームを率いています。設計やエンジニアリングの各決定を、確固たるガイドラインに基づいて慎重に行う必要があります、長期的な部門間協力に取り組んでいます。

1912年の創業以来、サステナビリティは Steelcase の根幹をなす価値観の一部であり、製品開発プロセスの中に織り込まれてきました。「私たちの経験から、地球のために良いことは、ビジネスにとっても良いことです。そのため、私たちはサプライヤーやパートナー、その他の利害関係者と学んだことを共有しています」「イノベーションの新たな機会と収益の流れを通じて価値を創造することで、この問題に関してビジネス上の決断を下している顧客により良いサービスを提供することができ、同時に、より大きなグローバル・コミュニティに利益をもたらすことができるのです」と Steelcase の最高収益責任者であるアラン・スミス氏は述べています。

では、どのようになるのでしょうか？プロダクトデザインのために古くからあるプロセスは気候変動時代にどのように再構築されるのでしょうか？

エンボディド・カーボンとは？

エンボディド・カーボンとカーボンフットプリントはともに、製品のライフサイクル全体を通じて排出される温室効果ガスの総量を指します。これには、素材の入手から製造、輸送、使用終了までのすべてが含まれます。しかし、最も大きな影響を与えるのは、素材が製品の部品に変わるときです。

製品のエンボディド・カーボン（またはカーボンフットプリント）を理解するには、製品に使用されている各素材の重量を測定し、その炭素強度（生産し、部品に変換する際に排出される炭素）を掛け合わせ、さらに製品の寿命を通じて発生するその他のエンボディド・カーボンを加えます。

$$\left(\text{素材重量} \times \text{炭素強度} \right) + \text{その他のエンボディド・カーボン} = \text{総エンボディド・カーボン}$$

これは、より少ない新素材、より多くのリサイクル材料、より炭素強度の低い素材を使用することで、計算がどのように変わり、製品全体の総エンボディド・カーボンを削減できるかを示しています。

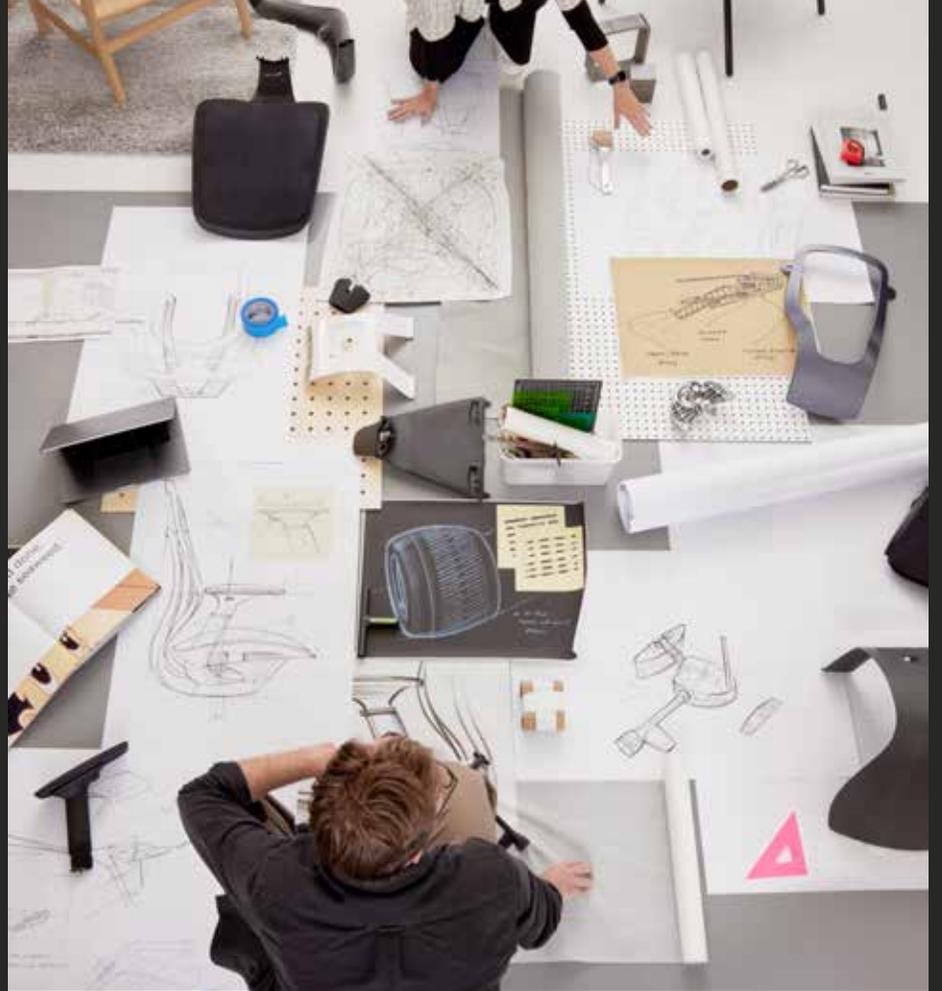


カーボンフットプリントの削減

「必要最小限の材料を使うことは、まさにスマートなデザインです」とヘルド氏は言います。私たちの多くは、大きな家、車、食事など、豊かな時代に育ちましたが、それ以前の世代は乏しかったため、より質素だったとヘルド氏は指摘します。その結果、今日にも応用できる革新的な資源の利用方法が生まれました。「製品であれ、建物であれ、あるいは都市をデザインする場合であれ、少ない材料や資源で高機能なものを作るには、これまでとは違った考え方が必要なのです」とヘルド氏は言います。

Steelcase の製品開発チームはまず、より少ない材料で現在市場に出ている製品と同等以上のパフォーマンスを実現し、カーボンフットプリントを削減するにはどうすればいいかと考えます。ヘルド氏によれば、部門間協力チームは製品の重量をこれまで以上に見極めているとのこと。Steelcase の Karman[®] はこのようなアプローチから生まれたチェアで、業界最軽量のタスクチェアのひとつでありながら、驚異的な強度を誇り、重さわずか 29 ポンドという軽さを実現するためにデザイン、エンジニアリング、マテリアリティといった新たな発想が必要とされました。ヨーロッパでは、高さ調節が可能なマイグレーション SE デスクに取り組んでいるチームが、他のデスクよりも軽量でありながら、耐久性に優れたデスクを開発しました。チームはイノベーションを起こすたびに、その学びを次のプロジェクトにつなげ、他のチームにも異なる発想を求めます。

Steelcase の Karman は地球への影響を軽減するために必要な最小限の部品で設計されており、今ではカーボンニュートラル[®] 製品認証を受けています。



より軽量でより少ない素材は、輸送にかかる燃料や生産にかかる資源、そして環境への影響をより少なくすることを意味します。Steelcase は 2018 年に材料科学における革新的な技術により、メカニズムなしに人体の動きに呼応する SILQ チェアを開発しました。デザイナーは SILQ から得た知見をもとに Steelcase Karman を開発しました。



「少ない材料や資源で機能性の高いものを作るには、異なる物の見方が必要です」



マイケル・ヘルド
Steelcase グローバルデザイン部門のバイスプレジデント



責任ある素材の選択と使用

かつて「正しい」素材とは、純度と性能、つまり欠点のない新しい物体を作ることでした。「お客様やデザイナーは品質や耐久性を重視しますし、リサイクル率が高く、リサイクルしやすく、人に安全な素材も重要視します」「責任を持って素材を選び、使用するという私たちの目標は、過去には考えられなかった、あるいは利用できなかった選択肢を探ることなのです」とミカ氏は言います。

Steelcase の Flex Perch Stool は、BASF 社と共同開発された新しいタイプのプラスチックから生まれました。これは、電子機器の製造過程で発生する廃棄物を再利用して作られています。この素材はバージンプラスチックと同様の性能を持ち、100%リサイクル可能で、電子廃棄物を埋立地に持ち込まないようにします。

かつては節や強調的な筋、その他の自然由来であっても目立つ部分は捨てられていました。しかし今日では、より持続可能な素材が自然特有の「不完全さ」を称賛しています。持続可能な方法で調達された木材や自然由来の生地は、より再生的な製品作りに貢献しています。「私たちのチームは、亜麻や麻といった成長の早い天然素材と有機結合剤の組み合わせを研究しています。「これらの繊維は本来循環型で、また水をあまり使わずに育ちます。実験を重ねることで、私たちは新しい創造方法を見出しています」とヘルド氏は言います。



以前は埋立処分されていた繊維や塗料の粉が回収され、新しい仕上げ材として再利用されています。Steelcase の New Black コレクションは端切れ生地を再利用してつくられました。アンサーパネルシステムの内部接合部には再生塗料が使用されています。



「責任を持って素材を選択し、使用するという私たちの目標は、過去には考えもしなかったような、あるいは利用できなかったような幅広い選択肢を模索することを意味します」



メアリー・エレン・ミカ
Steelcase サステナビリティ担当ディレクター

DesignTex 社の Loop to Loop は、同社の繊維廃棄物を回収し、アップサイクルしています。再利用モデルの他の例としては、海洋廃棄プラスチックを使用する「インターセクション」や、Gabriel Group がヨーロッパで展開している Beyond Loop と Renewed Loop では、フランスの Steelcase Sarrebourg 工場から年間 17 トンの廃材を使用する予定です。

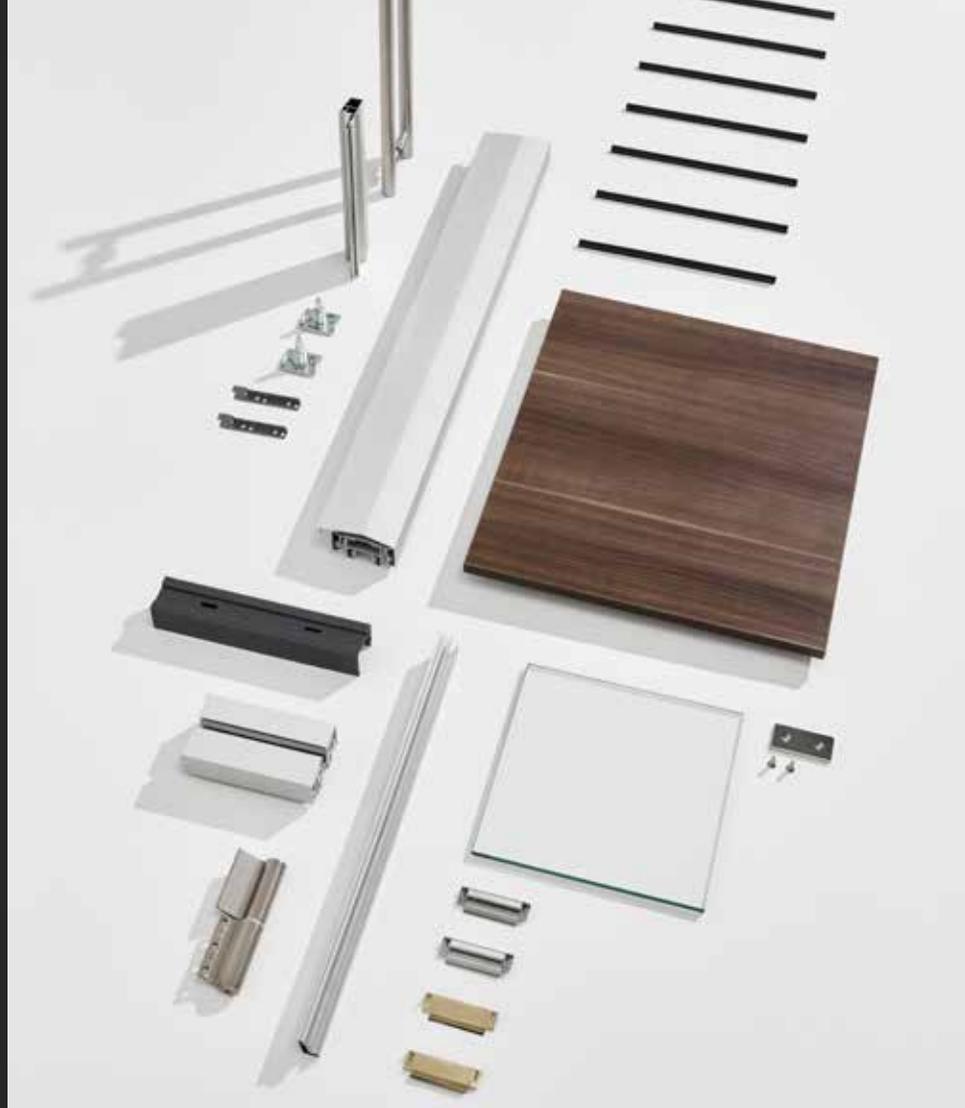


循環型デザイン

循環型デザインは本質的に複雑な目標です。それは品質についての新しい考え方です。製品が使用されている間にどのような性能を発揮するかは焦点を当ててではなく、製品のライフサイクルのすべての部分を考慮しなければなりません。

「リサイクルできるはずなのに、されない製品が多すぎるのです」「理論的にはリサイクル可能でも、実際にはリサイクルできない製品もあります。ですから私たちは、分解しやすい設計に重点を置いています。そうすることで、修理や改修がしやすくなり、製品の使用期間を延ばすことができます」とヘルド氏は言います。

例えば、Steelcase のフレックスアクティブフレームはシンプルなツール1つで組み立てや分解が素早くできるように設計されています。多くのパーツはカチッとほめるだけで、工具はまったく必要ありません。ヨーロッパでは Steelcase のフレックスアクティブフレームは、最適化されたパーセルロジックによりフラットパックで出荷されるよう設計されており、必要なものがすべて1つのユニットにまとめられているため、設置が簡単です。サイズにもよりますが、20分以内で組み立てられます。フラットボックスは、より多くの製品を一度に出荷し、二酸化炭素排出量を削減します。移動が必要なときは、バラバラに分解できます。耐用年数が過ぎても、簡単に分解できるため、リサイクルされる可能性が高くなります。



Everwall™はプレハブ式の壁システムで、職場のニーズが変化しても対応できるよう、モジュール式に設計されています。ガラス、スチール、アルミニウムなどのリサイクル可能な素材を使用し、100%再利用可能なパーツキットとして構成されています。部分的に組み立てられた状態で届くため、切断や粉塵、廃棄物が少なく、設置も短時間で済みます。

ヨーロッパでは、デザイナーとエンジニアが接着剤の代わりにジッパーを使用した Divisio 遮音スクリーンを開発しました。リサイクル可能な PET インフィルと手縫いの生地で作られた Divisio は、分解が簡単で、リサイクルされる可能性がより高いです。

持続可能なデザインには、製品のライフサイクルのあらゆる側面にわたってチームで考え、幅広いパートナーと協力して新しい技術や素材、プロセスを見つけることが必要です。時には、小さな変化だと感じることもありますが、集団として大きな影響を与えることもあります。それは、継続的な実験と学習の旅であり、私たちは「共に」変化をもたらすことができるのです。

より良い地球のための 15 の選択

地球環境にとってより良い職場を作ることは、必ずしも容易ではありません。どの製品が本当に持続可能なのかを見極めるという課題は、透明性と説明責任への要求を高めています。

Steelcase の 2023 年グローバルリサーチ (2 ページ参照) でアンケートを受けたリーダーたちは、自分たちの組織のサステナビリティ目標を達成するために重要な製品特性やサービスを特定しました。これは、自分たちの価値観を反映したオフィスづくりにさらに深く焦点を当てたものです。企業はワークプレイスが社員と個人的なレベルで共鳴し、彼らの全体的なウェルビーイングをサポートすることを望んでおり、それは地球のウェルビーイングに直結しています。

Steelcase とブランドコミュニティは多様な製品カテゴリーにおいてデザイナーの選択肢を増やすためにサステナブルな選択肢を幅広く提供することにコミットしています。これらは、炭素の削減、循環型のデザイン、責任ある素材の選択と使用といった、サステナブル・デザインの原則を象徴する製品の一部分です。組織やデザイナーは、私たち全員が共有する世界にとって、より良いソリューションを選ぶことで自信へと繋がるのです。

New! Cugino Soft Mattiuzzi

Mattiuzzi の家具はすべて、持続可能な方法で調達された FSC® 認証材と PEFC 認証材を使用しています。このイタリアンブランドの機械は太陽光発電で作動し、木くずは工場の暖房に使用され、二酸化炭素の排出を最小限に抑える炭素回収システムが採用されています。インダストリアルデザイナーのコンスタンチン・グルッチ氏は最近、座り心地、スタイル、持続可能性を巧みにミックスしたユニークなスツール、Cugino Soft を生み出しました。認証材であることに加え、この新しく多用途なスツールは、オーク材よりも成長が早く再生可能な建設用木材で作られています。



Seed Bolia

スカンジナビアのデザイン会社である Bolia は、すべての製品開発に持続可能なソリューションを取り入れるようデザイナーに求めています。これは、耐久性、素材の選択、構造、部品のデザイン、そして全体的な気候フットプリントにも当てはまります。85%リサイクルプラスチックと FSC® 認証材を使用した Seed アームチェアは、モダンなスタイルとサステナビリティを兼ね備えています。素材の再利用、廃棄物の削減、責任ある調達を推進しています。





**New! Think
Quilted Back
Steelcase**

Think® は、オフィスチェアにできること、そしていかに持続可能かを考え直し生み出されたチェアです。部品点数を減らし、素早く簡単に分解できるように設計された Think チェアは、わずか 5 分で分解できリサイクルすることができます。サステナビリティのパイオニアである Think は、世界で初めて「ゆりかごからゆりかごまで(再利用できない廃棄物を一切出さないモノづくり)」の認証を受けた家具であり、チェア重量の約 3 分の 1 をリサイクル素材が占めています。今日、Think は、ソフトで洗練されたギルティンク背もたれを含む、温かみのある目的に合った新しい選択肢を提供しています。

**Victor2
Steelcase**

Steelcase の革新とサステナビリティの歴史は 111 年前の Victor から始まりました。Victor は金属製のゴミ箱で、籐製のゴミ箱の灰による火災を減らすためにデザインされました。Victor2® はリサイクルを促進するために生まれました。プラスチック用、コンポスト用、ガラス用など、交換可能な内部を備え合理化されたデザインは、特定のニーズに合わせてカスタマイズでき、適切な廃棄物やリサイクルの流れに沿って容易に分別できます。



**LessThanFive
Coalesse**

「LessThanFive®」はその名の通り、重量が 5 ポンド以下で、驚くほど強くできています。LessThanFive の椅子は 2016 年に Coalesse により発表され、軽量カーボンファイバーを使用した初めてのワークプレイス家具です。2022 年にはラウンジチェアとツールが発売されました。余分なものを一切排除して設計されたチェアの一体型構造は、スペアパーツの必要性を最小限に抑え、輸送に使用する燃料の量を削減します。



ヘルスケアスクリーン

KwickScreen

KwickScreen は、洗浄可能で再利用可能なプライバシースクリーンを臨床スペースに設置することで、使い捨てカーテンから生じる二酸化炭素排出量と廃棄物を削減しています。従来の使い捨てカーテンに代わる持続可能で長持ちする代替品で、5年以上使用できます。スクリーンはリサイクル可能な水性インクで印刷されています。掃除やメンテナンスが簡単なパネルは、標準的な洗浄剤や消毒液で拭き取ることができ、使い捨てを避けることができます。



再生ラミネート

Steelcase

廃棄されるはずだった無地の紙の破片を使い、質感のある再生ラミネートが出来上がります。紙は細かく砕かれ、液体紙パルプに加えられ、再生材を30%含む再生アグリゲート仕上げと再生グラベル仕上げになります。この技法は、少量生産によるクラフトマンシップに基づくもので、新しいシートは1枚1枚がユニークで自然なものです。再生ラミネートは Currency[®] など、ラミネートのデスク、収納、会議用ソリューション製品に使用できます。



Steelcase Flex Perch スツール

Steelcase

BASF 社とのパートナーシップにより、Steelcase Flex Perch はケミサイクリングまたは Ccycling[™] と呼ばれる持続可能なイノベーションを採用した初の家具製品です。このプロセスは電子機器の製造過程で発生し、焼却処分されるはずだった廃棄物を高品質な製品に必要な新しい原料に変えるもので、100%リサイクル可能です。このプロセスは廃棄物を減らし、化石燃料資源への依存を減らします。



Funda

Viccarbe

Funda コレクションは、製品のライフサイクルを長期化するために、金属構造と張り替え可能なシートでデザインされています。Funda コレクションのデザイナーであるステファン・ディーツ氏は、循環型経済の原則を積極的に支持しています。チェア、アームチェア、スツールはすべて、リサイクルしやすい構造になっています。金属と生地はそれぞれ別々にリサイクルできるため、廃棄物を減らし、より循環型経済を促進します。



Elective Elements + the Grand Rapids Wood Plant

Steelcase

Elective Elements は世界初の LEED シルバー認証を受けた製造施設で製造されています。2001 年に LEED® 認証を取得して以来、ミシガン州グランドラピッツにある Steelcase のウッド工場は、二酸化炭素排出量と生産廃棄物を削減し、FSC® 認証の木材と木質繊維素材の使用を最適化するために尽力してきました。木材工場は 2018 年以降、照明のエネルギー消費量を 50% 以上削減し、「ジャストサイズ」の包装を作ることでトラックの稼働率を向上させました。



New! Carbon Neutral Seating + Desking

Steelcase

私たちが環境への影響を軽減するために取り組んでいるように、他の組織も同じ目的を果たすため模索していることを私たちは知っています。高性能座席の全製品がカーボンニュートラルとして提供されることに加え、最も人気のある高さ調節可能なデスクの一部にもカーボンニュートラルが追加されました（昇降能力を高め、美観を向上させた Migration SE + Ology）。カーボンニュートラル® 製品認証を取得したこれらの各製品は、気候変動に歯止めをかけ、社会的インパクトをもたらすクライメート・インパクト・パートナーを通じて、信頼できるプロジェクトを支援しています。



これらの製品はアメリカ大陸でご購入いただけ、近々他の地域にも拡大する予定です。

Decade Chair

Blu Dot

リサイクル素材を使用し、Declare と Living Building Challenge の基準に基づくレッドリスト・フリーを達成した Decade は、Blu Dot の環境に優しい取り組みを体現しています。再生プラスチックのポリプロピレンそしてグラスファイバーを使用した積み重ね可能なチェアは、耐久性に優れ、傷がつきにくいので、長期に渡り使用することができ、交換部材の数も少なく済みます。



Surround + Regard

Steelcase Health

ヘルスケア環境向けの多用途ラウンジシートおよびスリーパーシリーズである Surround® は、Regard® ラウンジシステムと同じ部品を使用することで、モジュール化と組み立ておよび稼働の効率化をサポートしています。部品は、2つの製品間で簡単に組み立て、再構成、交換ができるように設計されており、何年にもわたって再利用することができます。



Answer

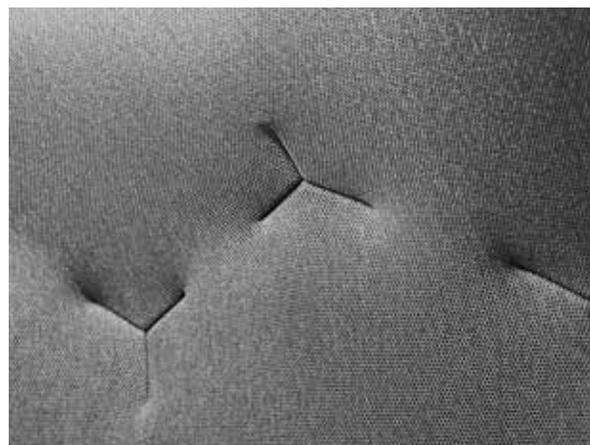
Steelcase

発売以来、Answer はその耐久性とフレーム構造により、組み替えや再利用を可能にし、より長い耐用年数を実現してきました。今日、Answer® はさらに地球に優しくなりました。新しいバルクパッケージは、1 パックに 100 枚のスクリーンが入り、(従来は 48 枚) この梱包の効率化により年間 60,000 ポンド以上の使い捨ての発泡スチロールを削減することができます。Answer スキンをまとめて出荷することで、プラスチック包装を削減し、プラスチックフィルムの使用量を 95%削減しました。また、Answer パネルの接合部に再生塗料を塗布する新工法により、埋立地に廃棄される粉体塗料が 97,000 ポンド削減されました。

Steelcase Flex Privacy Wrap

Steelcase

Steelcase は Camira 社と提携し、無駄のない生地を使用した Steelcase Flex Personal Spaces Privacy Wrap を開発しました。この製法では、従来の織機よりも少ないエネルギーで織ることができるフラットベッド横糸技術を採用しています。「ニット・トゥ・フィット」生地は、独特なカーブや輪郭に完璧にフィットするように設計されているため、裁断や縫製による無駄が削減されます。さらに、この生地は均質なすでに使用されたポリエステルをリサイクルして作られています。



Steelcase と私たちのブランドコミュニティと共に、人と地球のウェルビーイングに向けたスペースのデザイン方法を見つけましょう。



ニーマン・ マーカスの 帰属意識の 構築

高級ファッションのニーマン・マーカスは、社員のウェルビーイングと帰属意識は贅沢なことではなく、必要不可欠なものだと言います。ニーマン・マーカスのダラスの新拠点は、顧客が店舗で体験するようなラグジュアリーな感覚を取り入れ、社員が「特別な人生」だと感じられることを目標としています。

ダラスの CityPlace Tower にあるニーマン・マーカスの新しい企業ハブに来ると、ここが普通の職場でないことがわかります。このハイブリッド・スペースは Gensler のデザインによるもので、美しく快適だけでなく、リモートワークを優先するニーマン・マーカスのチームが仕事をこなし、心地よく働くために必要なものがすべて揃っています。公平性の目標をサポートするために設計されたスペースは役職に関係なく誰でも使用することができます。社員はフレキシビリティと自主性をもたらす多様なスペースから選択することができます。「みんなをひとつの所にフィットさせるのではなく、一人ひとりがフィットするシステムを採用しています」「私たちは、社員が快適で最も生産性の高い場所で働けるよう、不動産を最適化してきました。重要なのは、社員が最高の仕事ができるよう、公平性と柔軟性を提供する環境を育成することです。この自由と選択が力を与え、すべての人が成長し、キャリアアップすることを可能にするのです」とニーマン・マーカスのチーフピープル、ESG、ピロニング・オフィサーであるエリック・セバーソン氏は言います。

「このハブは義務的な場所ではなく、社員を集めるマグネットの役割を果たします」セバーソン氏は言います。このスペースは対面とリモートでの参加者の両方がコミュニティの創造、チームワーク、イノベーションをサポートするためにデザインされています。コラボレーションスペースはバーチャルツールやテクノロジーを装備しており、誰もが見たり聞いたりすることができます。「このスペースに組み込まれたテクノロジーは優れた平等性を生み出します」「社員がどこで仕事をしていても、私たちは効率的にサポートし、彼らがバーチャルでの会議に参加できるため、全員が公平に仕事を行うことができます」とセバーソン氏は言います。





「私たちは、お客さまが店舗で感じる感覚を、社員にも感じてもらえるようにハブを設計しました。高価なものという意味ではなく、誰もが特別な気分になれるような、パーソナライズされたラグジュアリーなものにしたいのです」

エリック・セバーソン

チーフピープル、ESG + ビロギング・オフィサー

美しくデザインされた5つのラウンジは、それぞれサンフランシスコ、ニューヨーク、マイアミ、シカゴ、ダラスにあるニーマン・マーカスの象徴的な店舗を表しています。社員が一息ついたり、人脈を作ったり、アイデアを共有したり、信頼を築いたりできる場所を生み出します。

コラボレーションスペースにはモニター、カメラ、スピーカーが装備されており、誰もがバーチャル会議に平等に貢献し参加できるように様々な参加者を効果的にサポートします。



人間工学に基づいたチョイス

+ New! Activ Pro 2.0 AMQ

+ New! Cluvo AMQ



ダラスのハブは社員が一人で仕事をこなすだけでなく、効果的に人間関係を構築し、コラボレーションを行うことができる場所です。高さ調節可能なデスク、人間工学に基づいた椅子、プライバシーをコントロールするスクリーンを備えたワークステーションは社員の身体的、認知的なウェルビーイングをサポートします。

ウェスト・エルムのワーク&オフィスのシニアデザイナーとして、ジェームズ・キリンジャー氏は West Elm Health Mesa のデザインを指揮しました。



+ New! West Elm Health Mesa
West Elm



より快適な医療空間

ジェームズ・キリンジャー氏は医療スペースについて考えたことはありませんでした。ウェスト・エルムのデザイナーは、混み合った待合室や臨床検査スペースよりも、居心地の良いソファや温かみのあるインテリアのデザインに親しみを持っていたのです。しかし、2017年10月に変化が訪れます。

ジェームズの婚約者であるメロディはある知らせを受けました。それは彼女とジェームズの数年にわたる治療と希望、そして思いがけないデザインの発見に繋がりました。メロディは白血病と診断されたのです。それから数年間、ジェームズは待合室や病室で数え切れないほどの時間を過ごすことになります。この経験が、医療現場でよく見られる、退屈で刺激のない環境に目を向けるきっかけとなりました。

その頃に、キリンジャー氏はウェスト・エルム・ヘルス・コレクションの一部となる新しい家具のプロジェクトに取り組み始めました。快適で心地よく、しかも24時間の使用に耐える耐久性のある家具をデザインすることに焦点を当てた、Steelcase Healthとのコラボレーションです。

患者がデザイン性の低いスペース、つまり冷たくて、活力がなく、施設的なスペースに足を踏み入れると、医療ケアの質に対する認識に悪影響を及ぼす可能性があるということにキリンジャー氏は気づきました。

Steelcase Healthのアドバンスド・エクスプローラー・マネージャーであるセス・スターナー氏は医療スペースは患者やスタッフに重要な実世界への影響を与え

るものであり、共感できるデザインが必要であると述べています。

「個人が体調を崩していたり、不安を感じていたり、トラウマを負っていたりする場合は、安らぎと心地よさを与えるようにデザインされた医療空間は、心を穏やかにするのに役立ちます」「また、困難な会話であったとしても、患者やその家族、医療従事者間のコミュニケーションがさらに円滑化されます」とスターナー氏は言います。

Steelcaseの調査によると、より温かく、より快適なスペースは患者を安らげ、不安のレベルが最も高くなる時期にストレスを軽減することができます。落ち着きのある環境は患者が臨床医とより明瞭で正確なコミュニケーションをとることをサポートするのです。

医療施設はまた、人々が一緒にいながら、かつプライバシーや独りを感じることができる場所を持つことで、スペースデザインに対するより総合的なアプローチを検討することができます。共有エリア、居心地のよいラウンジ、魅力的な待合室などを取り入れることで、医療施設はまるで家や優れたサポートコミュニティにいるような雰囲気をつくることができます。

婚約者が白血病だと発覚してから5年、キリンジャー氏の旅は一巡しました。彼のパートナーのがん治療が終わりかけた頃、メロディのクリニックは新しいビルに移転し、現在はキリンジャー氏自身がデザインに携わったウェスト・エルムの温かみのある家具が置かれた明るく陽気なスペースになっています。

そして今、メロディはがんから解放されました。

「このような施設で時間を過ごす人々は、大変な1日をすごしているということを忘れてはいけないのです。もし私たちが施設での体験をより受け止めやすく、より温かく、より親しみやすくすることができれば、デザイナーとして達成感を感じます」



ジェームズ・キリンジャー
シニアデザイナー
West Elm

さらなるヘルスケアソリューション



+ New! Radia
Steelcase Health

プーナム・ビール・カツリ氏の紹介

Daily Dump 創設者

プーナム・ビール・カツリ氏はインドで職人の手によって作られるコンポスト容器の会社 Daily Dump を設立しました。Work Better はプーナム氏に、デザインとビジネスは善の力になり得るといふ彼女の考えについて話を聞きました。



WB：Daily Dump (dailydump.org) を立ち上げるまでの道のりを教えてください。

PK：インドで工業デザインを学んでいたとき、デザインはどのように世界を変えることができるのか、そしてそれが私たち一人ひとりにとってどのような意味を持つのかについて話しました。そのことが心に残り、学校を卒業した後は、デザインは現実の世界とどのように交わることができるのか、という問いに自分自身で答えたいと思うようになりました。内部の調査や、インドの小規模な工芸品やパッチ生産に触れているうちに、私の学びはすべて、必要性という明確なビジョンに集約されました。需要はなかったかもしれませんが、必要性があることはわかっていました。そこで私は、工場ではなく職人の手によって作られる、国内初の家庭用コンポスターの試作を始めました。

WB：プラスチックや電子機器ではなく、なぜ食品廃棄物に注目したのですか？

PK：生ゴミは廃棄物の60%を占めています。生ごみはプラスチックよりもずっと簡単に循環させることができると知っていました。人々は、生ごみの循環が家庭で実際に起こっているのを見ることができます。つまり、「資源を循環させる」ことの意味を目の当たりにし、地球とつながることができるのです。生ごみの約70%は水です。本来は水である生ゴミをメタンガスを発生させる埋立地に運ぶために、納税者がお金を払う必要はないのです。

WB：このビジネスは、あなたの国でどのようなインパクトをもたらしましたか？

PK：私たちは、分散型の廃棄物管理というアイデアを正当化するための扉を開き、その道筋を作り、ムーブメントをデザインしました。私たちがビジネス上のリスクを冒してこのような会話を切り開いたことで、今では私たちについてきてくれる人たちがいます。彼らにとっては、循環型社会が当たり前になったのです。それが私たちの貢献であり、インパクトなのです。

WB：効率的で機能的な製造業ではなく、職人による手作りの陶器を使おうと決めたのはなぜですか？

PK：インドでは、教育を受けたりお金を持っていたりすれば、誰かが廃棄物を処理すべきだという風潮があります。労働者の尊厳は大きな問題で、私は自分の仕事をするのは悪いことではないと考えている家庭の出身です。私たちにとって、自分の手で仕事をする職人を支援することは最優先事項です。第二に、マインド

を変えることです。ただゴミ箱を作るだけなら、それは他のゴミ箱と同じように扱われるだけです。私たちは人々のマインドと行動を変えたかったので、人々の心の中に再生につながる新しい空間、つまり新しいエネルギーを作り出す必要がありました。粘土と陶器はインドで重要な共鳴を持っており、インドで深く意味のある原型につながる形や素材をこの新しい空間に与える必要がありました。

最後に

ビジネスモデルの多様性は重要なことです。ビジネスを始めるにはMBAが必要かもしれません。でも私のような愚直な人間も必要なのです。たとえば人々が必要ないと思っているものでも、「そうだ、コンポストが必要だ」と言ってもらわなければならないのです。私たちはこのビジネスを立ち上げ、人々にそれが必要だと説得しなければならないのです。だからこそ、今の世の中では、ビジネスにおいてもっと愚直さが必要なのだと思います。



プーナム氏とのさらなる会話は Work Better ポッドキャストでお聞きください。シーズン3は10月24日からスタートします。

インクルーシブデザイン

デザイナーやリーダー、そしてインクルーシブデザインの提唱者たちでさえ、よくこう問いかけます。「全員のニーズが大きく異なる場合、どのようにバランスを取ればいいのか？」あるいは、「競合するニーズがあるとき、誰の意見を聞けばいいのか？」と。あるグループにとっては公平な経験を支えるものであっても、別のグループにとっては問題を引き起こす可能性があるため、このような質問が出てくるのです。

唯一の解決策はありませんが、この「対立」や競合する優先順位を理解することは力につながります。

組織が社員やDeiのリーダーと協力することで、より包括的な経験を創造する機会が今まで以上に生み出されます。私たちが協力し、学び、生産的になる空間に集うことで、人々はより良いものを期待することができます。存在する対立を考慮し、これまで排除されてきた視点やコミュニティと協力することで、リーダーは先を見越した行動をとることができます。そしてリーダーは、意思決定が、存在するニーズの全領域をサポートしていなければ、ミスマッチや排除に繋がることに気づくのです。私たちはこれらを通じて、インクルーシブなデザインする際に考慮すべき5つの主要なデザイン上の対立を特定しました（右のデザイン上の対立の表を参照）。

「空間はどのように力を与え、受け入れることができるのか」と問いかけることで、私たちは解決策を再考し、公平性とアクセシビリティの文化を調和させ、強化するようなインクルーシブな体験やデスティネーションスペースを意図的に共創し始めることができます。

「インクルーシブなデザインは集団にインパクトを与える機会を生み出します」「一人ひとりのユニークなニーズを理解することで、相乗効果や多くの人に拡大できる解決策を見出すことができるのです」とSteelcaseのグローバルデザインプリンシパルのメグ・ベネット氏は述べています。

寄稿ライター：
カマラ・サドバリー
リーダー、インクルーシブ
デザイン
Steelcase

異なるニーズへのデザイン



普遍的
適応の必要なく、すべての能力レベルに対応する設計です。

特殊
非常に特殊なニーズを持つ個人グループのためのデザインです。

ひとつのサイズがすべてにフィットするわけではありません。アクセシビリティとは、ユニークなニーズや状況に対応した包括的な場所を創造することでもあります。



集団的ウェルビーイング
ウェルビーイングは共同体的なもので、関係や地域社会、環境によって影響を受けます。

個人的ウェルビーイング
ウェルビーイングは、適切な場所と道具が与えられれば、人が育ち、発展させることができる活動でもあるのです。

ウェルビーイングにおける「個人+集団」のバランスが取れた環境は、ストレスを軽減し、健康的で回復力のあるコミュニティを育むことが証明されています。



低感受性
感受性が低下し、刺激を認識したり反応したりしにくくなる経験のことです。環境からの感覚入力をより好む傾向があります。

過敏症
感覚刺激に対して非常に敏感であることです。管理され、予測可能で、「感覚にやさしい」環境を好みます。

過敏症は頻繁に変化する可能性があるため、失見当識、疲労、イライラ、シャットダウンにつながる誘因やストレス要因を減らすために、環境をコントロールできるようにする必要があります。



柔軟性
さまざまな好みや能力に対応することは、アクセシビリティにとって非常に重要であり、人々が空間を自分のものにするのに役立ちます。

予測可能性
予測可能性は、人々が一日の準備や計画を立て、ストレスを軽減するのに役立ちます。

柔軟性は障壁を取り除くのに役立ちますが、予測可能性のない柔軟性は混乱と認知的過負荷につながります。



つながり
他者との有意義なつながりは人を支え、健康上の懸念が高まっている孤独と闘います。

和らぎ
身体的、心理的な安全性は不可欠なニーズであり、すべての人がプライバシー、独りの時間、休息のための場所を必要としています。

つながりやコラボレーションのためにデザインすると同時に、私たちの選択によって、人々が守られ、安全で安心だと感じられるようにすることも追求すべきです。

対立のバランス

人々のつながりを取り戻すために、組織は広大なスペースでみんなが集まれる大規模な集会を開催しています。しかし、その体験がすべての人に適しているとは限りません。

これまで

中心的な集いの場には、多様な人々が集いますが、空間が提供する体験はひとつだけです。平等な体験は排除を生み、個々が求めるものを制限し、多くの人が取り残されたような、居心地の悪い思いをすることになります。ベネット氏と彼女のチームは、デザイン上の対立を探り、スペースがより公平な体験を生み出す方法を特定しました。



これから

1. ハイバックの個人用ラウンジチェアは、身体を保護し、心理的な安らぎを与え、開放的な空間での視覚的な雑念を軽減します。スタンディング - 高さのあるテーブルは、座ったり、腰掛けたり、立ったりと、動きをサポートするための選択肢を提供します。
2. 建築的な壁やビルトイン機能のような要素は、スペースを定義し予想することができるため柔軟性と同じくらい重要となります。
3. 自分のスペースを確保できる団樂の場は安心感と快適さを提供します。丸テーブルの座席は見通しが良く、スタッキング可能な軽量チェアを使うと素早く席の配置ができ、アクセシビリティを向上します。
4. 明確なエリアがあることで、人々は安心して、落ち着きを感じることができます。低い座席は、さらなる選択肢を提供します。360度回転する座席一体型のテーブルでは、移動させたり、スペースを調整したりできます。
5. 発表者席は一段高くなっており、見通しがよくなっています。回転式の座席は移動を可能にし、モバイルテクノロジーは参加者の公平性をサポートします。



新たな法律事務所の姿

ステータスだけでなく、ウェルビーイングのためのデザイン

法律業界は、週 80 時間以上の労働が当たり前という厳しい労働文化で知られてきました。パートナーシップの追求は、しばしば個人的な人間関係や全体的な健康状態を犠牲にするものでした。

しかし、世界的なヘルス危機が変化のきっかけとなり、法律の専門家は優先順位を見直すようになりました。アメリカ法曹協会によると、働く場所を決める際に最も重要視されるのはもはや報酬ではなく、より柔軟なスケジュールなど、より健康的なワークライフバランスです。65%が週に 2～3 日はリモートで仕事をすると回答しています*。これは、ハイブリッドな職場で企業文化を発展させることが最大の課題であるとするリーダーたちを悩ませています**。

* クッシュマン&ウェイクフィールドによる 2022 年全米法律セクター・ベンチマーク調査結果

**Georgetown Law

「何十年の間、法律事務所の外観は同じでした。荘厳な個室、宮殿のような会議室、堂々としたロビーが主流で、主にクライアントに地位と威信を示すツールとして設計されていました。今、企業はより人間中心のアプローチで社員のニーズに応えようとしています」と Steelcase WorkSpace Futures の主席研究員であるキース・ブヤック氏は述べています。ブヤック氏は、法律家のニーズの変化に職場がどのように対応できるかを理解するための調査プロジェクトを主導しました。調査は米国とカナダで行われ、一次資料と二次資料が含まれています。

新しいテクノロジーの急速な導入が変化を促しています。過半数の企業 (66%) がより柔軟な労働環境をサポートするためにテクノロジーへの支出を増やすと予想しており、中でも IT セキュリティとネットワーク機能が最優先課題となっています*。「パンデミックはデジタルトランスフォーメーションを加速させました」「もはや紙やデスクトップ・コンピューターに依存することなく、モバイル・テクノロジーによってどこでも仕事ができるようになったのです」ブヤック氏は言います。

2022 年の Steelcase の調査によると、米国とカナダの法律専門家の大多数は週 3 日以上オフィスで仕事をし (他業種と比較して最も多い)、コラボレーションや他の人とつながるためにオフィスに来ていと答えています。また、出社日数が 2 日以下の社員は、コラボレーションを最重要理由に挙げていますが、交流活動も非常に高く評価しています。

法律事務所は、このようなすべての働き方に最適化されたスペースを確保し、新しいワークスタイルに対応する必要があるとブヤック氏は言います。「クライアントのために立派なオフィスを構えるだけではもはや十分ではありません。法律事務所は、より人間らしく感じられるような、人を育てる経験を創造する必要があります」。ステータス重視からパフォーマンス重視への転換により、企業は従業員の内側に目を向け、スペースがどのようにウェルビーイングと仕事の能率を向上させるかを模索しています。



新たなワークスペースの推進力

Steelcase のリサーチャーは新しいワークプレイスエクスペリエンスを推進する3つの要因を特定しました。法律事務所は、次のような設計が求められています：

インクルージョン

すべての人のニーズを把握するために、すべての声に耳を傾けそしてユニークなワークプロセスをサポートするスペースをデザインすることです。

柔軟性

新しい人材はフレキシブルなワークスケジュールや、よりフレキシブルなスペース、ツール、テクノロジーを用いたさまざまな場所で働き、つながることに魅力を感じています。

ウェルビーイング

新たな価値観は再生可能な育成的ワークエクスペリエンスを必要としています。人々は1日の仕事が終わった後、より良い気分になることを期待しており、それを可能にするスペースが必要なのです。

Steelcase のリサーチでは法律家のニーズに対応するためにスペースがどのように変化すべきかを明らかにしました。

コミュニティスペース

この人が集まる中心的な場所は、ほとんどの法律事務所にとって新しいものです。人目を引く理想的な



場所に位置し、人を集め、文化を育み、事務所内を真正面から見渡せると同時に、クライアントに高いプロフェッショナルリズムを示すように設計されています。このハイパフォーマンスなスペースはモバイルテクノロジーをサポートし、誰もが仕事をこなしたり、仲間と会ったり、何かを創造したり、コミュニティ形成のイベントを開催したりするために利用できるようになっています。

プライベートオフィス

ハイブリッド・ワークがプライベートオフィスの目的を変えました。これまでは集中して仕事をするためにデザインされていたプライベートオフィスですが、今では複数の仕事モードをサポートし、集中とコラボレーションをシームレスに使い分けられることが求められています。対面でもリモートでも同僚を受け入れ、パーソナルブランドと個性を表現し、ストレージも提供します。

コンファレンスセンター

これまでは高級感を示すためにデザインされてきたコンファレンスセンターですが、現在では人間関係の構築をサポートする多機能なスペースとして機能することが求められています。フレキシブルな家具とテクノロジーにより、会社のブランドを反映させながら、ハイブリッドワーク、ミーティング、トレーニングセッション、コミュニティイベントをサポートするスペースを創出しています。

バーチャル法廷

パンデミックを機に、法廷システムにビデオ会議技術が利用されるようになりました。バーチャル法廷では、法律専門家が公判をバーチャルでライブ視聴でき、誰もがより公平に完全な参加を実現します。

ウェルネス・ハブ

パートナーが社員のウェルビーイングを育み、サポートする必要性を認識するにつれ、法律事務所にウェルネス・ハブが出現し始めました。これらの場所では、人々が最高の仕事ができるよう、心身ともに自然に落ち着ける環境を提供します。社員のウェルビーイングのための具体的なニーズを反映した多様な環境（開放型と閉鎖型の両方、さまざまな座席オプションなど）は、インクルージョンと心理的安心をサポートします。

法律事務所は、ハイブリッドな労働力をサポートするために適応化を進めており、それによりオフィスが進化し、より多くの調整が必要だと感じています。クッシュマン&ウェイクフィールドが言うところの「従来型の画一的なモデル」から脱却し、「トレーニング、メンターシップ、コラボレーション、社内文化の中心であり、それらを支える「いかり」としてのオフィスの重要性を認識し始めています」*

Steelcase WorkSpace Futures のリサーチャーであるパトリシア・カマー氏とキース・ブヤック氏がこの調査に協力しました。



このプライベートオフィスでは、対面でもリモート参加でも個人の作業と共同作業を切り替えることができます。

リーガルスペースに適した その他の家具

+ New! Optic
HALCON



+ Ocular Coupe5
Steelcase



+ New! SW_1 Table with Power
Coalesse

実践による学習

「私は公立学校のシステムや従来の学校に慣れていたので、最初は学校という感じがしませんでした」

ジャクソン・ハワード
フランシス・タトルの学生

オクラホマ州エドモンドにあるフランシス・タトルのダンフォース・キャンパスは、自然光が降り注ぎ、明るいポップな色彩と、木や石などの自然要素が巧みに調和しています。ここでは、創造性を刺激し、生徒たちがこれまでになくアイデアを出し合い、探求し、問題解決に取り組むことを奨励するように設計されています。

フランシス・タトルは、医師、エンジニア、メカニック、ヘアスタイリストなど、様々な職業を目指す学生を対象に、幅広い実践学習を提供するよう設計されています。ダンフォース・キャンパスの教室には、堅苦しい机は並んでいません。この学校は、文字通り、すべてのスペースが学習スペースとなるよう、共同作業のために建設されました。キャスター付きの机と椅子により、生徒は簡単に教室の向きを変えることができ、チームワークやアイデアの共有のために机を寄せ合うことができます。

「当校の生徒の素晴らしいところは、彼らがここを選んだということです」とダンフォース・キャンパスのディレクター、カリーク・サリム氏は言います。「ここには、エンジニア、医者、看護師を目指す生徒がいます。彼らが次のレベルに到達するために手助けするのが私たちの仕事なのです」

「生徒たちは互いに協力し合い、チームワークを理解しなければなりません」「私たちの家具やスペースは、学習とは本来どうあるべきかを認識させてくれます」とサリム氏は述べています。この建物にはフレキシブルな家具がたくさんあり、グループで集まったり、一人で集中したりできるオープンスペースを作り出しています。ワークテーブル、キャスター付きホワイトボード、広々としたソファはグループでのブレインストーミングや1対1の交流に十分なスペースを提供します。一人の居場所を生み出すポッドや静かなスペースは個々のタスクに取り組むのに適しています。

「この物理的な空間は、私たちが次のレベルにいることに気づかせてくれます」「何をするにも、みんな常に協力的で、一緒に作業し、話し合うことで他の学生と親近感をが湧きます」学生のマリア・アーシャッドさんは言います。

フランシス・タトル・キャンパスがどのように学生たちの創造性、探究心、問題解決力を刺激しているのか、詳しくはこちらをご覧ください。
steelcase.com/francis-tuttle

学習に適した その他の家具



+ New! Numbers™
12" Cantilever Chair
Smith System



+ New! CeramicSteel Digital
Printing Capabilities
Steelcase + Polyvision

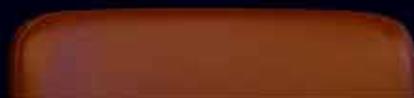
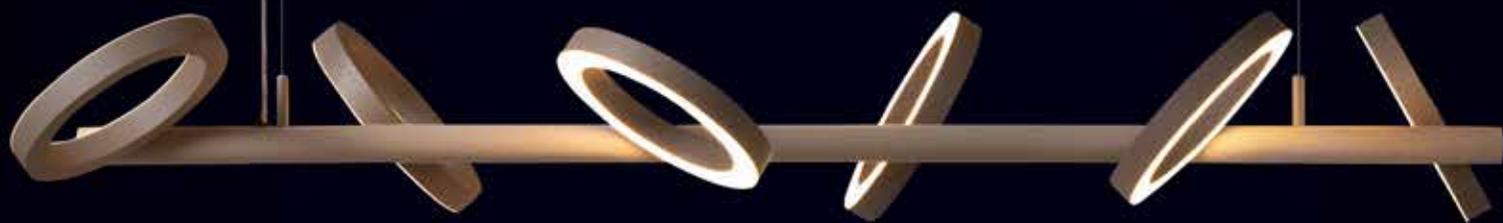


IDEO が Moooi のために制作した Pallana は、ハイブリッドなコラボレーションを最高に美しく見せると同時に、地球により優しい作りになっています。どなたでも6つの強力なライトリングを調整し、色温度と光量をコントロールすることができ、さらにLEDライトは、従来の電球よりも75%少ないエネルギーで、25倍長持ちします。

「デザイナーという仕事は、世界で最高の仕事です。Moooi は、私たちが普段できないことを探求できるプロフェッショナルな遊び場を提供してくれます。そして、Pallana は、空間に機能性と同じくらい気まぐれさをもたらします」

トーマス・オーバースン
エグゼクティブ・デザイン・ダイレクター
IDEO

インスピレーション



カバーについて

このオリジナル作品は、より良い未来をデザインしようとする人間を探求しています。水、樹皮、コケ、風をスチール、ガラス、布で織り込んだシュールな構成が、楽観的に前を見据える人物を取り囲んでいます。これは、自然と人間が作り出した要素の相互依存関係を反映しています。写真とレンダリングを融合させたこのアートは Steelcase のアートディレクター、グラフィックデザイナー、デジタルアーティストによって制作されました。

紙について

Work Better マガジンと Steelcase Impact Report は 100% サステナブルな再生繊維でできた紙に印刷されています。在庫は完全にリサイクル可能で、シートは雑誌とインパクト・レポートの両方のサイズを規定し、スクラップを最小限に抑えます。

Steelcase とつながろう



Work Better
プロダクト



Work Better
オンライン



Work Better
ウェビナー

より良い仕事を実現するための新しいソリューションを探しませんか。

steelcase.com/new